

2. 事業の概要と成果																									
(1) プロジェクト目標の達成度	ケリチョー郡シゴウェット・ソイン準郡の2地域で、新しく基礎的保健知識を有する保健ボランティア計64名とその監督者である地域保健委員計36名が育成され、地域住民への疾病予防啓発活動が始まった。また、既存保健ボランティアの活動する4地域では、給食やモデル菜園の導入、衛生施設建設を通じて、ECDE (Early Childhood Development and Education/Early Childhood Development and Education) センターで栄養改善が行われた。一方、身長計の調達に時間がかかり、本格的な園児の成長モニタリング実施は、2年次に持ち越された。																								
(2) 事業内容	プロジェクト目標達成のため、下記の活動からなる事業を行った。 活動1：住民が保健と栄養に関する知識と技術を身につけ、5歳未満児の栄養改善のための行動をとる。 ① タバイタとカプソンボッチの2地域に新しく保健ボランティア (Community Health Volunteer: CHV) とその監督をする地域保健委員 (Community Health Committee: CHC) を育成し、地域の衛生改善、健康希求行動の変容促進、医療施設へのリファール、世帯調査などを実施し、CHV による地域の健康向上のための活動を開始した。 ② またすでに CHV が活動しているカプタラムワ、カプレラッチ、ケジリエット、カプソロックの4地域では以下のワークショップや研修を実施し園児の栄養改善を目指した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ワークショップ名・研修名</th><th>対象</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童の健康、栄養、給食導入 WS (5回)</td><td>ECDE センター管理委員 (地域の代表、学校長、保護者から成る)、住民 延べ32名</td></tr> <tr> <td>栄養衛生研修 (5回)</td><td>ECDE センターの調理師、CHC と CHV 計延べ187名</td></tr> <tr> <td>成長モニタリング研修 (2回)</td><td>ECDE センターの教員 計延べ35名</td></tr> <tr> <td>栄養、学校保健研修 (5回)</td><td>ECDE センター教員 計延べ86名</td></tr> <tr> <td>農業、学校菜園作り研修 (5回)</td><td>ECDE センター管理委員、CHC と CHV、住民 計延べ276名</td></tr> <tr> <td>食事モニタリング研修 (1回)</td><td>CHC と CHV 計25名</td></tr> </tbody> </table> ③ 保健局と農業局職員が、各センターの活動を定期的にモニタリングし、現場でも個別に指導を行うことで、研修の復習や実技習得、個別の課題克服に役立った。 活動2：園児の健康を守るため、ECDE センターの衛生環境が整備される。 ① 啓発ワークショップで、各センターの衛生環境や給食実施状況等、センターの取り組みを振り返り、施設建設希望センターは建設計画と提案書を提出した。また独自に可能な環境整備計画案も全センターが立案し、それに沿って環境整備を実施した。 ② 施設建設の提案書とセンターの栄養改善活動の取り組み努力、住民のコミットメント、建設可能性について技術者との協議を重ね、7センターを対象とし以下の施設建設を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>建設施設</th><th>個数 (ECDE センター名)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通気改良型ピット式トイレ</td><td>4ECDE センター (Nyaberi, Chebirir, Kileges, Kaplelach)</td></tr> <tr> <td>25,000L 雨水貯水タンク</td><td>2ECDE センター (Chebirech, Nyalilbuch)</td></tr> <tr> <td>無煙かまど付き台所</td><td>1ECDE センター (Kejiriet)</td></tr> <tr> <td>通学路整備 (325m)</td><td>1ECDE センター (Nyalilbuch)</td></tr> </tbody> </table> 住民によるオーナーシップを高めるために、建設費用の30%を住民側が負担、施設開始時の技術や安全管理等の研修 (延べ175人が受講) や建設後もボランティアや職人アシスタントとして参加、住民のオーナーシップを育てるための、地域の子供達による建設した施設の壁画作成、施設の維持管理計画立案を行った。 ③ 水局、公共事業局、道路局のエンジニアによる施設建設や道路整備のモニタリングとインスペクションを実施し、技術面における工事完了認定を得た。	ワークショップ名・研修名	対象	児童の健康、栄養、給食導入 WS (5回)	ECDE センター管理委員 (地域の代表、学校長、保護者から成る)、住民 延べ32名	栄養衛生研修 (5回)	ECDE センターの調理師、CHC と CHV 計延べ187名	成長モニタリング研修 (2回)	ECDE センターの教員 計延べ35名	栄養、学校保健研修 (5回)	ECDE センター教員 計延べ86名	農業、学校菜園作り研修 (5回)	ECDE センター管理委員、CHC と CHV、住民 計延べ276名	食事モニタリング研修 (1回)	CHC と CHV 計25名	建設施設	個数 (ECDE センター名)	通気改良型ピット式トイレ	4ECDE センター (Nyaberi, Chebirir, Kileges, Kaplelach)	25,000L 雨水貯水タンク	2ECDE センター (Chebirech, Nyalilbuch)	無煙かまど付き台所	1ECDE センター (Kejiriet)	通学路整備 (325m)	1ECDE センター (Nyalilbuch)
ワークショップ名・研修名	対象																								
児童の健康、栄養、給食導入 WS (5回)	ECDE センター管理委員 (地域の代表、学校長、保護者から成る)、住民 延べ32名																								
栄養衛生研修 (5回)	ECDE センターの調理師、CHC と CHV 計延べ187名																								
成長モニタリング研修 (2回)	ECDE センターの教員 計延べ35名																								
栄養、学校保健研修 (5回)	ECDE センター教員 計延べ86名																								
農業、学校菜園作り研修 (5回)	ECDE センター管理委員、CHC と CHV、住民 計延べ276名																								
食事モニタリング研修 (1回)	CHC と CHV 計25名																								
建設施設	個数 (ECDE センター名)																								
通気改良型ピット式トイレ	4ECDE センター (Nyaberi, Chebirir, Kileges, Kaplelach)																								
25,000L 雨水貯水タンク	2ECDE センター (Chebirech, Nyalilbuch)																								
無煙かまど付き台所	1ECDE センター (Kejiriet)																								
通学路整備 (325m)	1ECDE センター (Nyalilbuch)																								

	④ 完了後に ECDE センター管理委員及び住民対象の維持管理研修を関係局とともに実施し延べ 91 人が受講し、各 ECDE センターに譲渡した。その後も関係局と連携しながら施設の維持管理のモニタリングを継続した。 活動 3：CHV、ECDE 教員、管理委員が、住民に幼児の栄養改善の知識と技術を普及する。 ① 新しく CHV を育成したタバイタとカプソンボッチでは、基本的な衛生環境の改善普及を進め、すでに CHV のいる 4 地域でも、小学校の児童や住民が、ECDE センターのモデル菜園設立運営を手伝うことで、家庭菜園づくりを学び、また CHV の家庭訪問、農業局のモニタリングを通じて、地域に家庭菜園づくりを普及した。 ② ECDE センター関係者が給食導入のための保護者への食材要請を実施し、開園中は給食を実施、また、家庭での食事改善教育も毎学期末の父兄との面談時に行った。 ③ CHV が園児の家庭で食事モニタリングを 1 度実施し、食事調査と栄養教育を行った。（年 3 回実施予定だったが、1 年次はスケジュールの関係で 1 回のみ実施した。） 活動 4：関係者との情報共有と持続性確保のための現地政府への啓発活動が行なわれる。 ① 郡と準郡レベルでの関係者会議を 1 回ずつ実施した。 ② ファシリテーター間の定期ワークショップを 2 回実施し、関係者間での進捗状況や課題等の共有、解決法を協議した。（2 回目は 5S 研修時に実施。） ③ 郡政府職員への行動変容を促すファシリテーション研修を 1 回実施した。 ④ 事業終了時参加型評価準備のため評価専門家を派遣し、事業活動内容および活動関係者の把握、指標データ収集の確認を行った。
(3) 達成された成果	活動 1： ① 基礎的な保健知識を持った CHV が育成され、コミュニティでの保健予防啓発が実施される タバイタでは 31 名、カプソンボッチでは 33 名の CHV とそれぞれ其々 18 名ずつの CHC が育成され、ともに研修後テストで 70%以上の CHV が 70 点以上を獲得した（目標値：60%以上が 70 点以上を獲得）。また CHV の義務である月次保健データ報告も其々 90%、93%提出された（目標値：60%以上）。 ② WS や研修受講者が園児の栄養改善のための行動をとり、栄養状態が改善する 研修後テスト結果は、ECDE 教員対象の栄養・学校保健研修では 83.19%以上、ECDE センター運営委員や住民対象の農業・栄養研修では 64.53%以上、CHV や調理師対象の衛生研修では 56.22%以上の受講者が 70 点以上を獲得（目標値：各 60%以上が 70 点以上）した。CHV・調理師対象研修では、特に調理師に文盲のものが多かったため、次年度では理解度評価法を検討する。 また、事業開始時には 4 センターで実施されていた給食が、事業開始後すぐに残りの 6 センターが開始し、これまで中断することなく対象 10 センターすべてで給食は継続している。給食実施により、園児数の増加、休みや早退が減少し出席率が増加、成績の向上が報告されている。学校菜園は、事業開始当初 1 校で行った形跡はあったが、全センターが農業局の指導通りに採用し、各センターで少なくとも 8 種類の作物を栽培し、園児の給食に追加したり、収穫作物は販売し、果物を追加するなど不足している栄養素を補う工夫を行っている。成長記録については、身長計の調達が遅れたため、1 年次終了間際に研修を実施。本格的な各センターでの測定結果の確認は、2 年次からとなった。 ③ 現場の状況が正確に把握でき、必要な活動の修正や強化が行われる。 保健局と農業局職員による定期モニタリングはすべて報告書が提出され、また各局の上層部にも成果が報告された。また裨益者を含む情報交換の携帯電話上のプラットフォームを通じて、裨益者からの写真報告で進捗確認や両局からのアドバイスも頻繁に見られた。 活動 2： ① ECDE センター関係者が衛生課題を認識し、自発的に課題に取り組む。

住民を含む ECDE センター関係者が立てた環境整備計画が、センターにより遅れはあったものの計画の 90%以上を実施した。

② **園児が水を使用できるようになる**：ほぼ全員が手洗いを履行。給食や飲料水としても利用されている。

園児がトイレで用を足せるようになる：教員の使い方指導により、ほぼ全員がトイレを使用。3 センターが適切な維持管理を実施、1 センターは指導中。

園児が栄養のある給食を取れるようになる：事業終了時間際の台所完成であったが、すでに対象センターでは定期的に発酵粥や果物や野菜を通常の雑穀粥に追加して支給している。

園児が安全に通学できるようになる：安全な通学の実現とともに、医療センターへのアクセスの向上など、約 2,000 人の周辺住民が安全に道路を利用できるようになった。

住民による施設・道路へのオーナーシップ強化：住民参加型の建設計画提案書、費用分担、建設への参加、建設前と建設後の維持管理研修の参加、施設の壁画作成、道路整備では実際の整備を担当することで、建設施設や道路へのオーナーシップが醸成され、8 か所中 6 か所が当初より維持管理計画通りに使用。2 か所は保健局の指導で改善した。

③ **園児が安全に使用できる衛生施設や通学路の完成**。関係局のエンジニアによる各工程で必要なインスペクションとモニタリングを経て完了の認定を受けた。

④ **建設施設の適切な使用と維持管理が継続**：各センターの維持管理計画は、当初 75%以上が実施、保健局の指導後 100%が実施済み。また、保健局は毎月モニタリングを実施しているが、教育局は人材不足のため、1 年次施設完了後のモニタリングは 1 か所のみ実施。

活動 3：

① **家庭での衛生的な環境整備**：タバイタとカプソンボッチでは、CHV 育成後、1 年次事業終了時期までに、トイレの普及率がそれぞれ 40%から 60%、50%から 70%へ上昇した。また、保健局・農業局のモニタリング報告書によれば、CHV 達による家庭菜園普及も広がり始めている。

② **保護者から給食食材が提供される**：事業開始後すぐに、全センターで給食を開始し、1 年間実施できた。農作物の収穫時に合わせて給食食材提供を依頼することで、開園中の不足を防いでいる。

③ **園児の栄養状態が改善される**：家庭でのミールモニタリングが 1 度しか実施できなかったため、家庭での食事内容や食事回数の変化を比較することができなかった。

活動 4：

① **マネジメントレベルが園児の栄養改善の意義を理解し、行動する**：一同に集めての会議が出来なかったため、各局とそれぞれ会議の機会を持った。また時間が限られていたために行動計画は会議ではなく、個別に担当者間で打ち合わせて作成。ほぼすべてが実施された。教育局・保健局・農業局・水局ら各関係局自らの制度への反映はまだだが、本事業への積極的参加により、現地住民への影響や啓発、モデル事業として持続的取り組みへの具体的な話し合いが会議以外でも活発になされた。

② **現場レベルが園児の栄養改善の意義を理解し行動する**：WS で立てた計画の 90%を実施。政府職員の人材不足は、職員間で調整することで現場での調整にかかっているが、特に保健局と農業局によるモニタリングは、直接裨益者が活発に活動を進めたこともあり、現場の政府職員にも良い刺激となった。WS では特に難しい現場の課題はなく、持続可能性のための、裨益者の理解をより深く促すこと、また次年次の新地域の人材育成など、先を見据えた話し合いが多かった。

③ **栄養改善のための行動変容を行う住民の増加**：建設開始時研修や 5S 研修を通じて、住民の行動変容への動機づけ、研修計画、ファシリテーションスキルなどを習得し、完成した建設施設の住民による維持管理等を促進した。

	④ 評価準備のための情報収集を実施：事業内容や現場の情報、指標等を収集し、事業参加者のオーナーシップの強化や継続性の観点から、評価手法や評価時期を検討。
(4) 持続発展性	ECDE センターを中心に始まった幼児の栄養改善活動は、ECDE センターで実施中の給食を通じて、保護者にも、幼児の健康状態や成績に好影響が表れていることが理解されるようになってきている。ECDE センターのモデル菜園管理も、ECDE センター関係者だけでなく、小学校の児童や地域の住民の協力で、安全で環境に良い農業や多様な作物が健康に寄与することを地域に広めている。また ECDE 教員や保健ボランティアを通じて、ECDE センターの環境改善、住民への栄養改善普及を行うことで、栄養改善のための意義・知識・技術が具体的に広まっている。さらに、衛生施設建設や道路整備が住民参加型で実施され、建設開始時や施設維持管理研修により、住民のオーナーシップを具体的に実施する手法を、住民および政府関係者に伝授している。また施設建設完了後の維持管理のモニタリングを保健局が主体的に実施することで、現場での指導を通じて改善が見られている。1 年次で得た成果は、住民にとっての新しい知恵や技術であり、これらを維持継続・習慣化させるために、今後政府とより協力を密にし、モニタリングや監督を通じて、ハードとソフトの活動結果が相乗的に発展を続けることを目指している。また、ECDE センターにおける栄養改善活動の、教育局のモニタリング・レポーティング・ツールへの組み込みを教育局と進めている。